タイトル：
AI 時代の学びを支える AISEN へ

□■■■━━━

不登校の子供一人一人の状況に応じて授業時数を
各学校長が柔軟に調整できる仕組みが検討されています。

不登校に至る背景は、友人関係や学習面での悩み、家庭の状況など、
一人一人異なります。

登校できるペースや向き合える学習内容も決して一つではありません。
こうした個々の状況に歩み寄るため、画一的な基準ではなく、
子供に合わせた柔軟な学びを支えることが今回の制度設計の狙いです。

そのため授業時数の設定でも、不登校期間や出欠状況、
学習の習熟度といった現在の状態に加え、
学びに対する意欲や求める支援など、
アセスメントに基づく児童・生徒の在り方を総合的に勘案することとされています。

実際の運用では、年度初めに年間計画を立てるだけでなく、
子供の様子を見ながら週ごと、場合によっては日ごとに学習の組み立てを
変えていくことが想定されています。

今後、次期学習指導要領の改訂と並行して検討が進められ、
不登校児童・生徒一人一人の実態に応じた学びの在り方について、
支援の仕組みも整えられていく見通しです。

▼不登校児童生徒に係る特別の教育課程の教育活動等について
https://www.mext.go.jp/content/20251203-mxt_jidou01-000046144_2.pdf

◇◆ トピックス（2）……
2 月 1 日から 3 月 18 日は、「サイバーセキュリティ月間」です
……◆◇

2 月 1 日から 3 月 18 日は、日本政府が定める「サイバーセキュリティ月間」です。

近年、不審なメールによる情報漏えい被害や個人情報の流出など、
生活に影響を及ぼすサイバーセキュリティに関する問題が多数報じられています。

誰もが安心して IT の恩恵を享受するためには、
一人一人がセキュリティへの関心を高め、
基本的な対策を習慣化することが不可欠です。

こうした背景を踏まえ、政府では「サイバーセキュリティ月間」 を設け、

全国的な啓発活動を推進しています。

この機会に、まずは身近なところから対策を再確認してみましょう。

・アカウントの保護： 推測されにくい複雑なパスワードを設定し、
二要素認証を活用することにより、アカウントの乗っ取りを防ぐ。
・組織内での注意喚起： 教職員や児童・生徒が不審なメールや URL を
安易に開かないよう徹底し、万が一の際の報告ルートを共有しておく。
・システムの最新化： OS やソフトウェアを常に最新の状態に保つ習慣を身につけ、
学校ネットワークの脆弱性を放置しない。

サイバーセキュリティは、一度の対策で終わるものではありません。
この月間をきっかけに、日々のデジタル活用の中に潜むリスクを正しく理解し、
安全な学びの環境を作っていきましょう。

国家サイバー統括室が運営する
「みんなで使おう サイバーセキュリティ・ポータルサイト」では、
サイバーセキュリティ月間の概要に加え、
学校・家庭・個人で活用できる分かりやすい解説や
お役立ちコンテンツが掲載されています。

日常の情報セキュリティ対策を見直す際の参考として、
ぜひあわせてご活用ください。

▼政府広報オンライン「サイバーセキュリティ月間」
https://www.gov-online.go.jp/data_room/calendar/202602/event-4031.html

▼国家サイバー統括室運営
「みんなで使おうサイバーセキュリティ・ポータルサイト」
https://security-portal.cyber.go.jp/

■□□■□□■□□■□□■□□■□□■□□■□□■□□■□□■□□■□□■
□【2】 情報セキュリティ事故ニュース ～ささいなミスが事故を招く～
■□□■□□■□□■□□■□□■□□■□□■□□■□□■□□■□□■□□■

★☆ 情報セキュリティ事故の発生状況（2026 年 1 月 5 日調査）
☆★ （1）紛失・置き忘れ：10 件 （2）不正アクセス：4 件
（3）誤送信：2 件 （4）誤配布：1 件
☆★ >> https://school-security.jp/leak/

2025 年 12 月は、合計 17 件の事故が発生しました。
情報セキュリティ事故の内訳と概要（都道府県名、公表日、組織区分、
漏えい経路・媒体、個人情報数）は以下の通りです。

（1）　紛失・置き忘れ
佐賀県 2025 年 12 月 1 日 県立 書類 2 件
北海道 2025 年 12 月 4 日 小学校 SD カード 125 件
愛知県 2025 年 12 月 5 日 市立中学校 書類 1 件
大阪府 2025 年 12 月 5 日 府立高等学校 書類 152 件
新潟県 2025 年 12 月 9 日 県立中学校 USB メモリ 813 件
神奈川県 2025 年 12 月 9 日 県立高等学校 書類 40 件
埼玉県 2025 年 12 月 9 日 県立高等学校 書類 278 件
北海道 2025 年 12 月 12 日 市立小学校 SD カード・USB メモリ 不明
鳥取県 2025 年 12 月 19 日 市立小学校 USB メモリ 96 件
熊本県 2025 年 12 月 26 日 市立小学校 書類 1 件

（2）　不正アクセス
群馬県 2025 年 12 月 13 日 民間 インターネットサービス・アプリ 223 件
岐阜県 2025 年 12 月 12 日 市立小・中学校 インターネットサービス・アプリ 150 件
福島県 2025 年 12 月 19 日 県立高等学校 インターネットサービス・アプリ 不明
宮城県 2025 年 12 月 26 日 国立大学 システム・サーバー 70 件

（3）　誤送信
北海道 2025 年 12 月 16 日 民間 電子メール 20 件
新潟県 2025 年 12 月 22 日 県その他　電子メール 27 件

（4）　誤配布
大阪府 2025 年 12 月 11 日 府立小学校 書類 11 件

※以下の参考サイトをもとに、学校、公的教育機関、関連組織で発生した情報セキュリティ事故の内訳と概要を掲載しています。事故の詳細は、上記に記載されている項目を検索するなどして、ご確認をお願いいたします。

参考サイト：
Security NEXT／Yahoo!ニュース／名古屋市公式ウェブサイト／大阪府ホームページ／
群馬県ホームページ／埼玉県ホームページ／岐阜新聞 Web／北海道新聞デジタル／
新潟県ホームページ／神奈川県公式ウェブサイト／熊本日日新聞 など

■□□■□□■□□■□□■□□■□□■□□■□□■□□■□□■□□■□□■

□【3】 学校 ICT・セキュリティコラム

■□□■□□■□□■□□■□□■□□■□□■□□■□□■□□■□□■□□■

◆ AI 時代の学びを支える AISEN へ ◆

AISEN 理事長　山西 潤一

新年、明けましておめでとうございます。
GIGA スクール構想も進み、次期学習指導要領では、
子供たちのリアルな学びをデジタルが支える
デジタル学習基盤を前提とした教育活動が謳われています。
従来の一斉授業の中では、
多様な子供たち一人一人に向き合う指導が難しかった中で、
一人 1 台端末はそれぞれの習熟度や興味関心に応じた
自己調整学習を可能にしました。
しかしながら、端末を持ったからすぐにそのような学習に
向き合えるわけではありません。
そもそも、学ぶ意欲のない子供に、
どんな素晴らしい道具を与えても無意味な道具でしかないでしょう。
PISA2022 の結果を見ても、読解力や数学的リテラシー、
科学的リテラシーは、OECD 加盟国中トップレベルであるにも関わらず、
言われなくても学校の勉強にじっくり取り組むや、
学校の勉強をするやる気を出すなど、主体的に学習に取り組む態度や、
実生活において数学を使って課題解決する自信が低いという傾向が見られます。
知識はあるが主体的にその知識を使いこなせていなのです。
知っていること・できることをどう使うかという、
アクティブ・ラーニングが言われてもう 10 年以上にもなるのに、
まだまだそのような活動が行われていない現状が見て取れます。
国際教育到達度評価学会の TIMSS2023 の報告でも、
学校で、デジタル・リソースが十分に使える、
それらの教材が学習を楽しくしてくれるという項目がありますが、
我が国はまだまだ低い評価です。

一昨年、教育の情報化を先駆的に進めている台湾の教育省を訪問し、
これからの教育についての意見交換をさせていただきましたが、
台湾では、小・中・高等学校デジタル学習精進プロジェクトのもと、
小学校 1 年生から高校 3 年生までを対象に、
「デジタル学習コンテンツの充実」「モバイル端末の提供および
無線ネット接続環境の整備」「教育関連ビッグデータの収集・分析」の 3 課題を進め、
教師の支援と児童・生徒の自己調整学習能力と学力の向上を目指しているとのことでした。

まさしく、我が国の GIGA スクール構想と同じです。
共通の学習プラットフォームの上に 60 万学習コンテンツが整備され、
しかも無料で利用できるとのこと。
特に基礎基本的な学習のほとんどがこのプラットフォームを活用しての学習、
中には児童・生徒の回答に応じて AI が習熟度を判定し、
適切なコンテンツへ導くシステムもありました。
近い将来、AI 技術の進歩で、
教科書をもとにした知識理解は AI 先生に
置き換わる日が来るかもしれません。

AI の教育利用が進めば学校の役割も変わります。
アクティブ・ラーニングに言われるように、
学んだ知識や技術をどう活かすか、社会に目を向けた問題解決学習が、
学校での中心的な活動になる日が来るのではないかと思います。
まさしく探求活動です。探求に関しては、
10 年ほど前に ISEN で調査に行ったオーストラリアを思い出します。
オーストラリアでは、2014 年から、
国の新たな 3 次元カリキュラムの中で、
教科として「デザインと技術」「デジタル技術」を導入しました。
ここでは、単に技術を教えるのではなく、
現代社会を支える技術が STEAM に代表される様々な教科の
基礎知識や技術から作り上げられているということを
理解するというコンセプトのもと、
教科横断的な授業が実施されていました。
E を Engineering ではなく、Enterprise に置き換え、
アントレプレナー教育に力を入れている学校もありました。
次期学習指導要領では、
次代に求められる情報活用能力の抜本的な向上を目指し、
総合的な学習の時間などの改善が検討されているとのことです。
活用能力を習得するのは大事ですが、
それを活かす問題発見・解決学習の充実が望まれます。
一人一人の能力に応じた個別最適な教育は AI 先生に任せ、
新たな価値を創造する協働的な学びの場と学校がなり、
先生も児童・生徒も、時に AI も仲間に入れた活動が展開される、
そんな時代が来る日も遠くないと思います。
しかしながら、AI がどんなに進歩しても、
個々の児童・生徒の日々の変容を最も把握しているのは先生です。
技術と先生の経験値が相まってこそ、
誰一人取り残さない教育ができるように思います。

さて、ISEN(Information Security for Education Network)も、
AI 時代を反映して、AISEN(AI Innovation and Smart Education Network)と改名し、
これまでのネットワークセキュリティのみならず、
生成 AI やメタバースなどをはじめとする先端技術と教育を融合させ、
次世代に求められる学び・人材育成など、幅広く活動を展開していくつもりです。
今後ともご支援ご鞭撻の程、どうかよろしくお願いいたします。

◆ 執筆者プロフィール ◆
山西 潤一
富山大学 名誉教授、上越教育大学監事
日本教育情報化振興会（JAPET&CEC）会長
日本教育工学協会（JAET）評議員
日本教育工学会名誉会員
一般社団法人 AI イノベーション＆次世代教育ネットワーク（AISEN）理事長
インターネットやコンピューターなどの情報通信技術を用いた
教育方法や学習環境の開発に関して、学校教育から生涯学習まで幅広く研究している。
専門は、教育工学、情報教育。

▽ 学校 ICT に精通した先生方の書き下ろしコラム
>> https://school-security.jp/column/

＜事務局＞
一般社団法人 AI イノベーション＆次世代教育ネットワーク（AISEN）
〒105-0013　東京都港区浜松町 1-30-5　浜松町スクエア 2 階（株式会社 JMC 内）
https://school-security.jp/

▽「教育の情報化や学校情報セキュリティ対策」にご興味をお持ちの方が
いらっしゃいましたら、本メールマガジンをご紹介ください。
メルマガ登録フォーム：https://fs220.xbit.jp/y592/form2/

▽ 個人情報の取り扱いは下記リンクをご参照ください。
https://school-security.jp/privacy/

▽ お問い合わせ・配信停止・メールアドレスの変更は、
下記フォームよりご連絡ください。
https://fs220.xbit.jp/y592/form3/